



さらなる理論・概念の展開へ
—平和と環境の政治地理学へ

政治地理学入門—理論編
第4日 第3回

IGU (国際地理学連合) の成立と国際化 (KISH 1992)

- 1871年 ヘルギー・アントワープで第1回IGC
 - 20か国、約300人参加
- 第一次大戦で中断
 - それまで米国(1904)除き、ヨーロッパで開催
- 1922年 IGU成立
 - 7か国(ベルギー、フランス、イギリス、イタリア、日本、ポルトガル、スペイン) 21代表から構成
 - ヨーロッパ外(エジプト1925)開催
 - 第二次大戦でリスボン大会(1942)中止
- 第二次大戦後 開催地の国際化
 - 米国(1952)、ブラジル(1956)、インド(1968)、カナダ(1977)、ソ連(1976)、日本(1980)、オーストラリア(1988)...



Geography: Bridging the Continents

2

IGUと戦争・分断の影 (KISH 1992)

- 戦争によるIGC中断(普仏戦争、第一次・第二次大戦)
- 第3代IGU会長(1922-31)まで軍事調査に従事した要人
 - 1931年以降は大学教員が就く
 - アントワープ大会(1871) 外交・軍事・行政関係者31%、アカデミック地理学者22%
 - ロンドン大会(1964) 外交・行政関係者4%、アカデミック地理学者85%
- 1922年の設立当初から第一次大戦敗戦国(敵国)の加入をめぐり加盟国間で対立
- 冷戦と分断国家の加盟
 - ソ連は30年以上非加盟のち1956年加盟
 - 東ドイツ1960年加盟、台湾に続き中国1949年加盟(1984年以降二つの「中国」)

3

世界政治地図委員会 (CWPM) の成立 (KNIGHT 1989)

- 1983年 オックスフォード大での政治地理学会議でスタディグループ結成の提案
 - 名前をめぐって口論のち(山崎伝簡)「世界政治地図 The World Political Map」委員会に
 - ソ連(当時)の参加者が「政治地理」が「ファシストとナチの臭味合いを持つ批判 (Commission on Political Geography 2008)」
 - 1982年に国際雑誌Political Geographyが創刊されるなど、欧米で政治地理学の「批判的復興」
- 1984年 パリ大会で承認
- 1988年 シドニー大会で委員会に昇格
- 2000年 ソウル大会で政治地理委員会 (Commission on Political Geography, CPG) に改称
 - 委員長はロシアのVladimir Kolossov (再選)
- 2012年 Kolossov IGU会長選出
- 2014年 Elena dell'Agnese IGU副会長選出
- 2015年 2014年の Commission Excellence Award授与

4

政治地理委員会 (CPG) の展開

- IGCおよびIGU RCでのプレ・ポスト会議開催
 - 1990年 中国・北京地域会議では「政治地理」でセッションを立てられず
 - 2016年 中国・広州 プレ会議 "International Forum on Frontiers of Political Geography"
- 独自の会議(各国学会との共同)開催
 - 1989年 イスラエル・ハイファ "War, Peace, and Geography"
 - 1993年 日本・東京 "Asia-Pacific and Global Geopolitical Change"
 - 1995年 インド・ニューデリー "Environment, Development and Peace"
 - 1995年 ロシア・モスクワ "Global Change and Geography"
 - 1997年 イタリア・トリエステ "Between Political Geography and Geopolitics: The Centenary of Ratzel's Politische Geographie"
 - 2012年 イタリア・トリエステ "Political Geography of the Environment: Borderscapes III"
 - 2014年 米国・ユージーン "Political Geography of the Environment"
- 他のIGU委員会との合同会議
 - 2016年 台湾・台北 "Earth, Society, Islands, and the Political in the Changing World"
 - 2017年 ポルトガル・リスボン "Geographies for Peace"

5

CPG運営委員会構成

	1984-88	1988-92	1992-96	1996-00	2000-04	2004-08	2008-12	2012-16	2016-18
西ヨーロッパ	8	8	12	12	12	12	12	10	6
北アメリカ	8	8	4	4	4	4	4	4	4
南アメリカ	4	4	4	0	0	0	0	2	2
南アジア	8	4	4	4	4	4	4	0	0
東・東南アジア	0	4	4	4	3	4	4	8	2
東ヨーロッパ・旧ソ連	4	4	4	4	5	8	12	8	2
中東・北アフリカ	0	4	4	4	4	4	4	4	2
サハラ以南アフリカ	4	1	4	4	5	4	4	0	2
オセアニア・太平洋島嶼	0	0	4	4	4	0	0	0	0

注) 単位は委員数に就任年数をかけたもの。出典はCWPM/CPG Newsletter各年。

6

地理学と政治・イデオロギー

- ・地理学本質論と政治地理学との関係
 - ・ **人類地理学・環境論**の主導者としてのFriedrich Ratzel
 - ・ 人間集団 (Volk 民族) に影響する自然環境の機械論的解釈
 - ・ 生物学や進化論からのアナロジーとしての生存空間 (Lebensraum) 論を民族国家の動態の説明に適用、**政治地理学 Politische Geographie**として体系化
 - ・ 一つはSempleなどの**環境 (決定) 論**へ、もう一つはKjellenやHoushoferらの**地政学 Geopolitik**へ派生
 - ・ 地理学と帝国主義・植民地主義 (ひいては戦争) との接点の一つ
- ・ したがって、戦前の政治地理学/地政学は「**文理融合科学による国家貢献**」の一形態
 - ・ 戦後もIGUの**国際主義に付きまとう形**
 - ・ 戦後の政治地理学は地理学と政治・イデオロギーとの関係に「敏感」、古典地政学の克服を意識

7

IGUと政治、あるいは「地理学の政治」

- ・ 会議開催地・国をめぐるボイコット問題
 - ・ 2008年 チュニス地域会議へのパレスチナ地理学会のボイコット
 - ・ 2010年 テルアビブ地域会議とイスラエルアカデミアボイコット運動 (PACBI 2009)
 - ・ 2011年 サンチアゴ地域会議会場 (サンチアゴ軍学校) をめぐるボイコット (Hirt & Palomino-Schalscha 2011)
 - ・ 2015年 モスクワ地域会議とクリミア問題
- ・ 会議テーマ (領土・地名問題など) の政治化
 - ・ 会議と国家・政権・国策との関係
 - ・ 委員会やセッションの編成の「政治的」意図
 - ・ 委員や出席者が個人ではなく国家代表として関与することの是非
- ・ どこまで建設的議論の場たり得るか
 - ・ ICCG (批判地理学者国際会議) やEARCAG (オルタナティブ地理学東アジア会議) 結成の意味

8

IGUの「政治地理的」可能性

- ・ 保守的・リアリスト地政学を超える
 - ・ 文理融合を環境 (決定) 論的に解釈「しない」視座の提示
 - ・ 国際関係論のような国家スケールの議論に終始しない
 - ・ 軍事的均衡は「積極的平和」ではない
 - ・ 地理学者ならどうトランス・ナショナル (ローカル) な議論を展開できるか
- ・ 現実の政治問題を理解し、対立から対話への契機を模索する
 - ・ 前CPG運営委員、共同委員長としての発表者の実践から
 - ・ テルアビブ地域会議の際にパレスチナ側 (アルクツス大学) 訪問
 - ・ 京都地域会議後に沖縄基地問題スタディツアー実施
 - ・ 広州CPG7会議によって古典地政学に傾斜しつつある中国地理学会に政治地理学提示
 - ・ ラバシIGUテーマ会議「平和のための地理学」開催協力

9

2010年7月
エルサレム

10

2013年8月
辺野古

11

2015年8月
モスクワ

12



2015年8月
モスクワ
コロソフ会長と

13



2016年8月
広州

14



2017年4月
ラバト

15

「平和と環境」の政治地理学へ（1）

- ・「平和 Peace」の促進はCWPG創設時からのテーマ
- ・しかし「平和」を標榜しても戦争と紛争の政治地理学が続く (cf. Flint 2005)
- ・戦争と紛争がない状態にどう持っていけるかの実践的洞察に欠く (Megoran 2011)
- ・隆盛する境界研究には平和構築の実践が期待される
- ・Élysée Reclus や Pjotr Kropotkin らアナキスト地理学への関心の高まり

16

「平和と環境」の政治地理学へ（2）

- ・「環境 Environment」も持続可能開発論とともに1990年代から重要なテーマ
- ・気候変動と地域紛争は新しいテーマの一つであるも、やはり紛争に着目
- ・新しい文理融合科学として「環境」をどのように取り込み直すか
- ・破壊される対象から、テロなどとともに社会への「リスク」の源泉に (ベック 2010)
- ・IGUの枠組みで、国家主権を超えた環境 (そして平和構築) ガバナンスの必要性と道程をどのように展望できるか→「新しい地政学」の地平？

17

引用文献、協力

- ・ Commission on Political Geography (2008). History of the IGU Commission on Political Geography. <http://www.csis.dharmacharya.edu/ku-csop/IGU-Polhistory.html>. (Accessed 7 April 2018).
- ・ Flint, C. (2005). *The Geography of War and Peace: From Death Camp to Diplomats*. Oxford University Press.
- ・ Hirt, I. & Palomino-Schalscha, M. (2011). Geography, the military and critique on the occasion of the 2011 IGU Regional Meeting in Santiago de Chile. *Political Geography* 30, 355-357.
- ・ Knight, D. B. (1989). The International Geographical Union Study Group on the World Political Map: A report on the first four years. *Political Geography* 8(1), 87-93.
- ・ Kish, G. (1992) International Geographical Union: A brief history. *GeoJournal* 26(2), 224-228.
- ・ Megoran, N. (2011). War and peace? An agenda for peace research and practice in geography. *Political Geography* 30, 178-189.
- ・ PACBI (The Palestinian Campaign for the Academic and Cultural Boycott of Israel) (2009). Open letter to the International Geographical Union: Enforcing geographies of Justice. <http://www.pacbi.org/bin/news.php?id=1119> (Accessed 7 April 2018).
- ・ ベック, ウルリヒ (島村賢一訳) (2010) 『世界リスク社会論—テロ、戦争、自然破壊』筑波書房
- ・ 調査協力 横林泰宏 (大阪市立大学大学院生)

18

ご清聴ありがとうございました

